



↑「古川ナス」のブランドを守り、「PC鶴丸」への期待を話す筆者。



宮城県内の50%の出荷量を誇る「古川ナス」ブランド

「PC 鶴丸」

の作業性で栽培面積縮小を食い止める

JA古川ナス部会 部長 曾根 隆行

JA古川、ナス栽培の概略

JA古川ナス部会は、宮城県大崎市（旧古川市）で1987年に設立され、今年で36年を迎える歴史のある部会です。現在部会員は41名で「ハウス栽培」「露地栽培」「ロックウール栽培」の3形態で栽培が行われ、栽培面積は約3・4haです。昨年度（2022年度）の販売実績は約7200万円で、出荷量は250tです。ともに宮城県内のナスの約50%のシェアを占める県内一番の生産地です。

JA古川ナス部会ではマルハナバチ天敵資材の導入による環境にやさしいナス栽培に取り組みとともに、消費者の方から選ばれる産地づくりを進めるため、自主GAPへの取り組みや品質についても部会独自の厳しい規格を設け、「安心」「安全」な「古川ナス」を消

地域概要

宮城県北西部に位置する大崎市は、江合川と鳴瀬川が育む肥沃な平野「大崎耕土」が広がり、全国的に有名なブランド米「ササニシキ」「ひとめぼれ」のほか、地域ブランド米「ささ結」（東北194号）の誕生の地であるとともに、大豆や野菜、畜産の生産が盛んな農産物の宝庫です。

JA古川は1998年4月1日に大崎市内の旧4JA（JA古川市、JA西古川、JA三本木、JA伊場野）が合併して誕生しました。

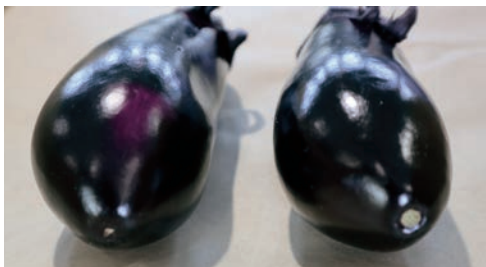


費者の方に届ける活動をしています。これらの取り組みによりJA古川なす部会で出荷するナスは「古川なす」として他産地との差別化が図られ、市場からも高い評価を得ています。

JA古川管内における作型

管内のナスの作型は、ほぼ夏秋栽培で、ハウス栽培が大部分を占め、露地栽培も行われています。

3月上旬ごろからはハウス栽培での定植が始まります。その後水稻育苗後



←「PC鶴丸」は花
落ち跡が小さい
ことも特長。
(左：PC鶴丸、
右：慣行品種)



←草勢が強くなく
枝管理しやすい
ため、切り戻し
・摘葉作業が楽。
一方でこまめな
液肥管理による
草勢の維持は必
要。



↑管内で収穫された「PC鶴丸」は色・つやともに良好で部会内での評価も高い。

のハウスを利用し、5月中下旬ごろまで5月植えの定植が行われ、露地栽培の定植も同時期に行われます。

出荷はJA古川の野菜集荷場（2カ所）で行われ、品質の確認などの検査を部会員、JA担当者が行い「古川なす」として出荷しています。3月植えは4月下旬ごろから出荷され、6月上旬～7月上旬にかけて最盛期を迎えます。5月植え（ハウス・露地）は6月中旬ごろから徐々に出荷が始まり、7～8月に最盛期を迎え、その後10月下旬ごろまで出荷が続きます。

このように「古川なす」は植え付け時期がおおむね2タイプあるため、時期により出荷量の増減はあるものの、安定した出荷量を維持できています。管内の品種としては、ハウス栽培は「式部」が約9割を占め、それに加え単為結果品種も若干量栽培されています。

「PC鶴丸」導入の経緯

JA古川なす部会でも少なからず生産者の高齢化や、各種生産資材（肥料、マルチなど）の価格高騰が栽培への負担となり、年々栽培面積が減少してきています。その対策として、部会としてもコスト、省力化の面から新たな単為結果品種の導入を進めたいとの声があがっていました。候補として3年ほど前、タキイ種苗から「PC鶴丸」の提

案があり、2年程度の試験栽培を経て、2023年度より本格的に導入を始めた。今期は「PC鶴丸」苗の予約が約18%に上っています。

「PC鶴丸」導入後の評価

試験栽培では「PC鶴丸」の、てんぐ果や花落ちの問題がありました。しかし栽培講習会や現地検討会を年数回行い、タキイ担当者より講習などのサポートをしていただきました。その結果、導入初年度にもかかわらず、部会員の評価は良好です。収量に関しても従来品種と同等か微減にとどまっております（7月末時点）、栽培管理においても節間長、葉の大きさも従来品種並みで、特に問題はありませんでした。

また、従来の単為結果品種と比べると収量、管理の面では、格段に「PC鶴丸」の方がよいとの評価です。収量の波も少なく、品質面でも色・つやとも良好です。これを受けて、2024年度はさらに植え付け本数が増える見込みです。

一方問題点もあり、てんぐ果が最盛期に近づくにつれ（5月下旬ごろから）増え始めることや、花落ち、低温時での草勢確保の問題などが課題として部会員から上がっています。解決のために部会として栽培講習会などで1年間の反省、考察の機会を設け、タキイさ

んとも連携して長年にわたって栽培していける主要品種に部会として育てたいと思います。

作業性の向上が栽培面積増加へ

「PC鶴丸」の導入により、作業性の向上や省力化に大きな期待をもっています。効果が出て栽培面積も少しずつ増加の方向へ傾けばと思います。作業性（ホルモン処理が不要なことなど）のよさは、植え付け本数や栽培面積を減らしていた部会員に対して提案ができた大きな強みです。新規就農者に対してもおすすめしやすい品種だと思います。これから先「古川なす」ブランドを維持していくためにも「PC鶴丸」は大きな武器になると考えています。そのためにはJA古川管内でのベストな栽培方法を部会として勉強しながら、早い段階で確立させることが重要と考えます。

今年の結果を検討しデータをしながら「元肥」「追肥のタイミング」「温度管理」などを、栽培暦のような形で作成できればと思います。

JA古川なす部会は、36年間の長きにわたり築いてきた「古川なす」ブランドをこれからも維持、向上させていくためにも「PC鶴丸」はJA古川管内のナス栽培に大きな力になる品種だと期待しています。

※文中でご紹介している品種はタキイ通販で扱っていないものもございます。（編集部）